

ロマン・ロラン年譜

年代	年齢	年 譜	参 考 事 項
1866年 (慶応二年)		1月29日ブルゴーニュ地方ニエール県クラムシーにロマン・エドム・ポール・エミール・ロラン誕生。 父は公証人エミール・ロラン、母はアントワネット・マリー・クロー。	福沢諭吉『西洋事情』 普仏戦争 マルクス『資本論』第一巻刊
1868(明治元年)	2歳	最初の妹マドレーヌ生まれる。	
1869			トルストイ『戦争と平和』(1869)
1871	5	妹マドレーヌ三歳で病死。	普仏戦争フランスの敗北 パリ・コンミュン成立と挫折
1872	6	二番目の妹生まれる。マドレーヌ(~1960)と名づけられ、兄の生涯の協力者となる。	ブルム生まれる
1873~ 1880	7	クラムシー学院(現ロマン・ロラン学院)に入学。	ペギー、バルビエス生まれる
1875	9	シェークスピアを愛読。	
1880	14	10月、ロラン一家パリに転居。サン・ルイ高等中学に転入学。	フランス、労働党成立
1882	16	スイス旅行。(自然の啓示)を受ける。 エコール・ノルマルの入学準備のためレイ・ル・グラン高等中学校に転校。この学校でポール・クローデルを知る。	三国同盟
1883	17	スイスでヴィクトル・ユゴーを見る。	ニーチェ『ツァラトゥストラはこう語った』
1884	18	スピノザ『エチカ』を読み啓示を受ける。 ベートーヴェン、ワグナー、シェークスピアに熱中。 エコール・ノルマルの入試に失敗。	
1885	19	三月、ユゴーに面会。五月、ユゴー死す。 エコール・ノルマルの入試に再度失敗。 トルストイ、ドストエフスキーを読む。	ベルリン会談、アフリカ分割を協議
1886~ 1889	20	7月、エコール・ノルマルの入試に合格。11月、入学。同級生にアンドレ・シェアレスがいた。12月、ルナン訪問。	
1887	21	トルストイに手紙を書き返事をもらう。 歴史学科を選択する。	仏領インドシナ連邦成立
1888	22	4~5月哲学論文冒『真なる故にわれ信ず』を書く。これによつてロランの思想の哲学的原型が成立する。 スイス旅行。セザール・フランクを訪問。	ロダン『カレーの市民』
1889	23	8月、エコール・ノルマル卒業。歴史学教授の資格を得る。 ローマのフランス学院に留学生として選ばれ、バチカンの古文書館で研究する。	ブーランジエ事件 大日本帝国憲法発布
1890	24	マルヴィーダとの親交。ソフィーアと出会う。イタリア各地の美術館をたずねる。イタリアの自然を享受。 ジャンニコロの啓示。	フランス第一回メーデー 日本第一回衆議院選挙 教育勅語
1891	25	7月、フランスへの帰途、マルヴィーダとパイロイトを訪れ『パルジファル』を聞く。『エンペドクレス』と『オルシーノ』を執筆。	大津事件
1892	26	コレジユ・ド・フランス言語学教授ミシェル・プレアルの娘クロチルド・フレアルと1月31日に結婚。博士論文の資料を集めるため妻とともにローマに旅行、翌年春まで滞在する。	
1893	27	パリのリセ(中学・高等学校)の教師になる。	日清戦争(1894)

1895	29	文学博士となる。主論文『近代音楽劇の起源—リュリとスカルラントイ以前のオペラの歴史』。副論文『十六世紀イタリア絵画の凋落』。 11月母校エコール・ノルマルで芸術史講座を担当。 学生にシャルル・ペギー、ルイ・ジレー。	日清講和、三国干渉 フランス、労働総同盟結成
1896	30	『演劇芸術評論』の編集に参加。	ベルグソン『物質と記憶』
1897	31	戯曲はじめて発表される。『聖王ルイ』(『パリ評論』3～4月)4～11月『敗れし人々』執筆。	ドレフュス事件起こる
1898	32	『アエルト』の上演と発表。 ジャン・ジョーレスの演説を開く。戯曲『狼』がドレフュス事件の精神的高揚の中で執筆され、5月18日上演、ペギーの書店より出版される。	ゾラのドレフュス事件への抗議文『私は弾劾する』
1899	33	戯曲『理性の勝利』出版、6月上演。	
1900	34	妻とともにローマに旅行。母方の祖父エドム・クローの死。ペギーの創刊した『カイエ・ド・ラ・キヤンゼーヌ』に協力。 『ダントン』発表と上演。	フランス、ストライキ続発 日本、治安警察法公布
1901	35	3月、クロチルドと離婚。マイッツのベートーヴェン記念音楽祭に出席。	
1902	36	3月、『七月—四日』出版および上演。この上演料でローマにおもむき、マルヴィーダとの最後の会見。5月～11月、高等市民講座の音楽史の講義を担当(～11)。伝記『ミレー』発表。	フランス下院選挙で社会党大勝 日英同盟成立
1903	37	4月マルヴィーダ死去。『ベートーヴェンの生涯』発表。これによつてロランは民衆の心をつかんだ。『民衆劇論』刊。『時は来たらん』発表、上演。	
1904	38	『ジャン・クリストフ第一巻『曙』』を発表。つづいて『朝』も発表。パリ大学で音楽史を担当。	日露戦争
1905	39	第三巻『青年』発表。アルザス・ロレーヌに旅行。	第一次モロッコ事件
1906	40	第四巻『反抗』発表。『ミケランジェロの生涯』刊。	
1907	41	第五巻『広場の市』第六巻『アントワネット』発表。	英仏露三国協商
1908	42	第七巻『家の中』発表。『今日の音楽家たち』『ありし日の音楽家たち』刊。	
1909	43	第八巻『女友だち』発表。『七月—四日』『ダントン』『狼』を刊。	
1910	44	第九巻『燃え立つ茂み』発表。『ヘンデル』刊。自動車事故で重傷。	トルストイ死す 日本、朝鮮併合・大逆事件 『白樺』創刊
1911	45	『トルストイの生涯』、第十巻『新しい日』発表。	
1912 (大正元年)	46	『ジャン・クリストフ』完結 パリ大学を辞任。すべての教職を辞して全面的に作家活動を行う。	モロッコ、仏領となる
1913	47	4月から9月にスイスに滞在して『コラ・ブルニオン』を書く。 『ジャン・クリストフ』にフランスアカデミー文学賞。ツヴァイク、リルケを知る。『スタンダールと音楽』『信仰の悲劇』を書く。	
1914	48	6月、スイスへ旅立つ。フランスへの帰国を自ら断念する。 『戦いを超えて』を発表。ゲルハルト・ハウプトマンへの公開状。国際赤十字による戦時俘虜事務所に協力し、奉仕的労働を行う。	第一次世界大戦 ペギー戦死
1915	49	論文『戦いを超えて』を含む論文集を刊行。	
1916	50	1月アンリ・ギルポーの雑誌『明日』が創刊され最後の号(1918年10月)まで協力。ゴーリキー(1868～1936)との交友がはじまる。 11月、1915年度のノーベル文学賞を授与され、その賞金全部を赤	タゴール来日

		十字や、フランスの種々の社会事業に寄付する。	
1917	51	ロシアに同行するようにとのレーニンの要請を断る。	レーニン、ロシアへ帰る ロシア二月革命および十月革命
1918	52	『アグリゲンツムのエンパドクレス』刊。平和に関して『ウイルソン大統領宛の公開状』	第一次世界大戦終結
1919	53	『コラ・ブルニョン』、『リリユリ』刊。母死す。 『先駆者たち』刊。『精神の独立宣言』発表。 『過去の国への音楽の旅』刊。タゴールに手紙を送る。	リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ虐殺される ガンディーの不服従運動 ヴェルサイユ講和条約
1920	54	『ピエールとリユース』、『クレランポー』刊。	国際連盟成立
1921	55	タゴール、ロランを訪問。アンリ・バルビュスと論争。スイスに出発。	魯迅『阿 Q 正伝』、中国共産党創立
1922	56	『敗れし人々』刊。『魅せられたる魂』『アンネットとシルヴィ』刊。	ソビエト連邦成立
1923	57	『魅せられたる魂』『夏』刊。『ガンディー』刊。 マリー・クーダチエヴァと文通を始める。『ヨーロッパ』誌創刊。	
1924	58	ウィーンで R・シュトラウスと会う。レーニンの死を悼む。『内面の旅路』、『周航』を執筆。	レーニン死す
1925	59	『愛と死の戯れ』刊、上演。	
1926 (昭和元年)	60	1月29日、60歳誕生日。『ヨーロッパ』誌第2月号はロラン記念号として特集する。ネルソン、タゴール来訪。	国際的ファシズムの台頭
1927	61	反ファシズム国際委員会の名誉議長となる。ベートーヴェン研究を再開する。『魅せられたる魂』『母と子』を発表。ウィーンのベートーヴェン百年祭で『ベートーヴェンへの感謝』と題する講演をする。	アメリカ、サッコとヴァンゼッティを処刑
1928	62	インド研究に没頭する。『エロイカからアパッションナータ』を発表。	パリ不戦条約
1929	63	マリー・クーダチエフと会う。『ラマクリシュナの生涯』刊。日本人の来訪あいつぐ。	世界大恐慌
1930	64	『ゲーテとベートーヴェン』刊。『ヴィヴェカーナンダの生涯』を刊。	ロンドン軍縮会議
1931	65	父親94歳で死す。ガンディー、ロランを訪問。『スピノザの閃光』発表。	満州事変
1932	66	『マルヴィーダとの書簡集』刊。『魅せられたる魂』『予告する者』『一つの世界の死』刊。アムステルダムにおける反戦・反ファシズム大会名誉議長。	ドイツ総選挙でナチス第一党となる
1933	67	『魅せられたる魂』全巻を脱稿。反ファシスト国際委員会の名誉総裁となる。ヒトラー政府からのゲーテ賞を拒否。	ナチス唯一政党宣言
1934	68	マリー・クーダチエフと結婚。反ファシスト行動委員会の第一回宣言に署名。	ヒトラー総統兼首相となる バルカン条約
1935	69	『闘争の一五年』、『革命によって平和を』刊。 ソビエト訪問、ゴーリキーの家に滞在。バルビュス、モスクワで客死。葬儀に関してロランの弔辞をマルローが代読する。	フランス・イタリア協定
1936	70	70歳誕生記念祝賀会がブロック、アラゴン主唱で開かれる。 人民戦線政府の後援で『七月一四日』と『ダントン』が上演される。 ゴーリキーの死を知る。 パリを訪れる。『道づれたち』刊。	フランス人民戦線成立 スペイン人民戦線勝利 スペイン市民戦争 二・二六事件
1937	71	フランスへの帰国を決意。ヴェズレーの家を買う。 『復活の歌』刊。	日中戦争
1938	72	ヴェズレーに移る。	
1939	73	フランス革命150年祭に『愛と死の戯れ』がコメディエール・フランセーズのレパトリーとなる。『ロベスピエール』刊。	第二次世界大戦

1940	74	病床で著述をつづける。ヴェズレーにドイツ軍戦車隊侵入。クロードルとの交友復活。	パリ陥落 日独伊三国同盟
1941	75	ルイ・ジレーとの交友復活。	太平洋戦争
1942	76	『内面の旅路』刊。	
1943	77	『第九交響曲』、『後期の四重奏曲』刊。重病、視力おとろえる。	イタリア降伏
1944	78	ソビエト大使館の革命記念祝賀会に出席。『ペギー』刊。12月30日、ヴェズレーにて永眠する。クラムシーのサン・マルタン寺院で葬儀。遺言によりプレーヴの小さな墓に眠る。	パリ解放
		ロラン没後の出版物 ベートーヴェン研究『フィニタ・コメディア』(1945年) 『ベートーヴェンの恋人たち』(1949年) 自伝『敷居』(1945年) 『周航』(1945年) 『回想録』(1956年) その他日記、書簡集。	
		作成者 清原章夫 有馬通志子	